

平成 24 年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(名張市) の概要

10月20日(土)に名張市で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、とれたて名張交流館運営協議会の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 10年後も、第1次産業である農林水産業がもっと盛んになって、若い人がもっと活躍でき、また十分な収入が得られる三重になれば、すこいやんかといえる。
- 伊賀と名張地域は、「食」と「スポーツ」とをPRし、全国に知ってもらえるように情報発信していきたい。
- ハード面だけでなく、食を中心としたソフト面で、物産と観光を連携させ、もっと名張市を全国にPRしていきたい。
- 地産地消の取組として、学校給食で、自分たちの作った農産物をもっと活用してほしい。
- 糖度を完全に保証できるようなメロン作りがしたい。そのため、糖度を測定する機器の導

入について、支援いただきたい。

- 企業における障がい者の一般就労に関して、障がい者の就労支援だけでなく、定着支援をいかに実施していくのかという面で、行政としてのサポートをしてほしい。また、福祉作業所における福祉的就労に関して、なかなか工賃のアップにつながっていない面が課題である。福祉作業所の職員へのサポートが必要である。その結果として、障がい者の工賃がアップし、安定した生活につながるのではないかと。
- 新規就農者への支援策が、40歳未満の方という年齢制限を緩和してほしい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 伊賀忍者ビーフカレーを食べると、子どもが忍者のようにすばやくなれるとか、かしこくなれるとか、そういうPRができればおもしろい。子ども向けの甘口もあればよい。
- じゃらの読者アンケートによると、「自分の住んでいる地域が好きな人が多い地域ほど、観光客が多い。」という結果がでている。観光客にたくさん来ていただくには、自分の住んでいる地域を好きになることが大前提である。
- メロンの糖度を測定する機器については、補助で台数を増やすのがいいのか調べて検討したい。また、工業研究所で検査機器を無料で貸し出している。県内の拠点となる施設に検査機器を置くことも考えられる。研究機関で調べたい。
- 県では、平成22年に企業における障害者雇用実態調査を実施した。一度雇用したが、障がい者雇用をやめた企業が約15%あった。現在その要因を分析しており、来年度県として障がい者の定着支援をどうしていくのか検討している。企業が障がい者雇用をなぜやめたのか、景気の影響とか、仕事を分担させる難しさとか、対応の難しさなどの要因が考えられるが、どういうサポートが必要かについてしっかり分析して、定着支援に取り組んでいきたい。
- 新規就農者への支援については、国の制度を確認したい。

